

目次

一、巻頭言	一	五、組織宣傳部報告	八
二、加盟支部一覽表	二	六、教育部報告	一〇
三、役員氏名	三	七、婦人部報告	二
四、一般會務報告	三	八、調査部報告	三
1. 昭和六年度大會決議事項の執行	三	九、争議部報告	三
2. 關東同盟及總同盟大會	四	十、政治部報告	五
3. メーデー	五	十一、會計報告	七
4. 共同工場及團體協約	六		
5. 理事會及執行委員會	六		
6. 役員人事	八		

巻頭言

一大恐慌の嵐は總ての産業を其の渦中にと捲き込み、労働者は慘憺たる其の影響下に置かれた。勞資の對立尖鋭化は當然である。斯る時我が紡織労働組合は、總同盟の傳統的、堅實なる方針の下に、我等自らの防衛の爲めに、或は我等の受くる打撃の最少禍の爲め、最善の努力に終始一貫したるは云ふ迄もない。事實労働組合としての實績と効果を挙げ得たと信ずる。

非常時内閣の實現、ファツシヨの擡頭、日本労働組合會議の成立、社會大衆黨の結成等今年は労働組合運動にとつて劃期的な年であつた。併し乍ら、我等に最も深き感銘と、異常なる決意を與へたのは、關東紡の争議である。幼年、婦人を多數擁し頭迷罔兩なる資本家を敵とし、あの長期間好く闘ひ得た事は實に我が總同盟なればこそである。我等は此の誇りを最も一段と光輝あらしむる爲めに、より一層の努力を必要とするのである。

總同盟十萬突破を約束する我等は今後、大紡織工場への進出を使命とし、其の遂行に邁進しなければならぬ。斯る時間東紡争議より以上の難關を突破しなければならぬ。

即ち、より果敢なる闘争への轉向は、より整備され訓練され亦實された内容の下に、一大磐石の基礎の上に組合を置く事である。來るべき我等の運動は、建設的事業、共済的職分等の完成と相俟つて、總同盟十萬突破に對し、最も目醒しき運動と奮闘とを條件とすべきである。

昭和七年十月九日

組合長 松岡駒吉